

令和6（2024）年度学生生活満足度調査及び生活実態調査結果

I. 調査時期、対象者数

1. 実施期間：令和7年1月～2月（WebClassでのアンケート）
2. 対象者数・回答者数及び回答率

対象者：令和6年度在学生（休学者を除く令和7年1月1日に在学している者）

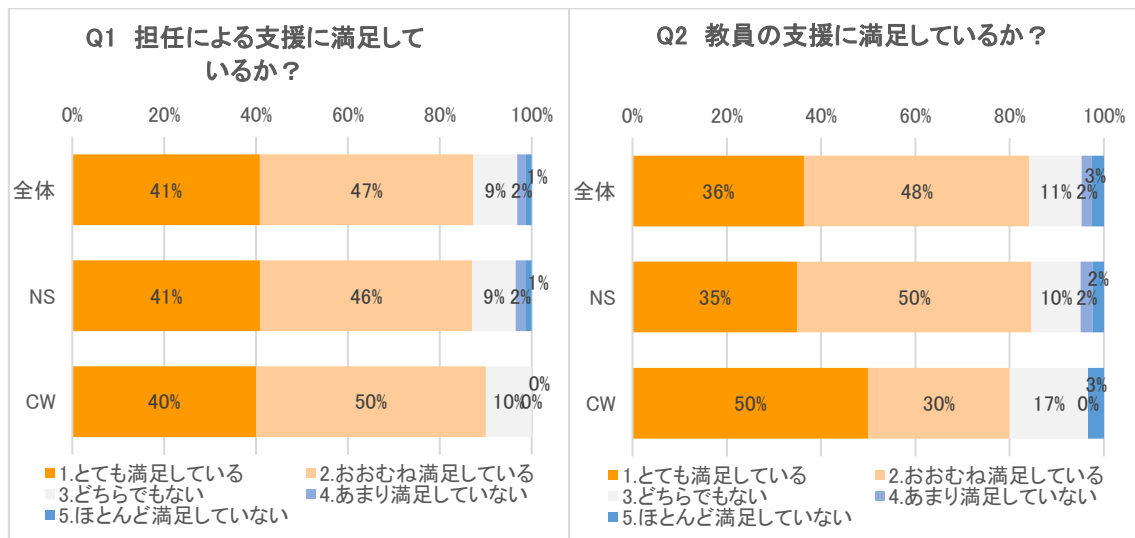
表中の略称について
NS：看護学科
CW：医療介護福祉学科

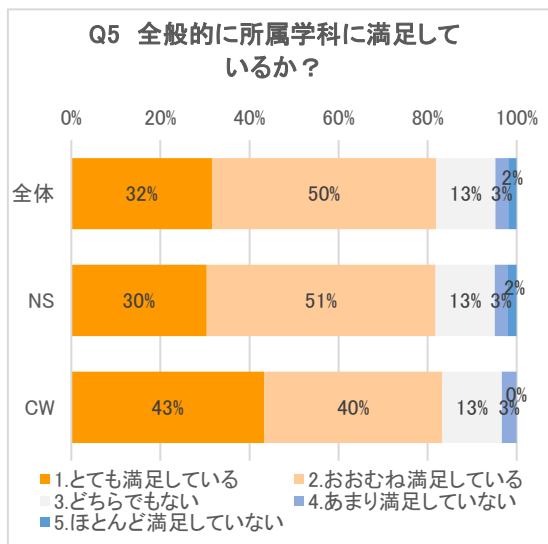
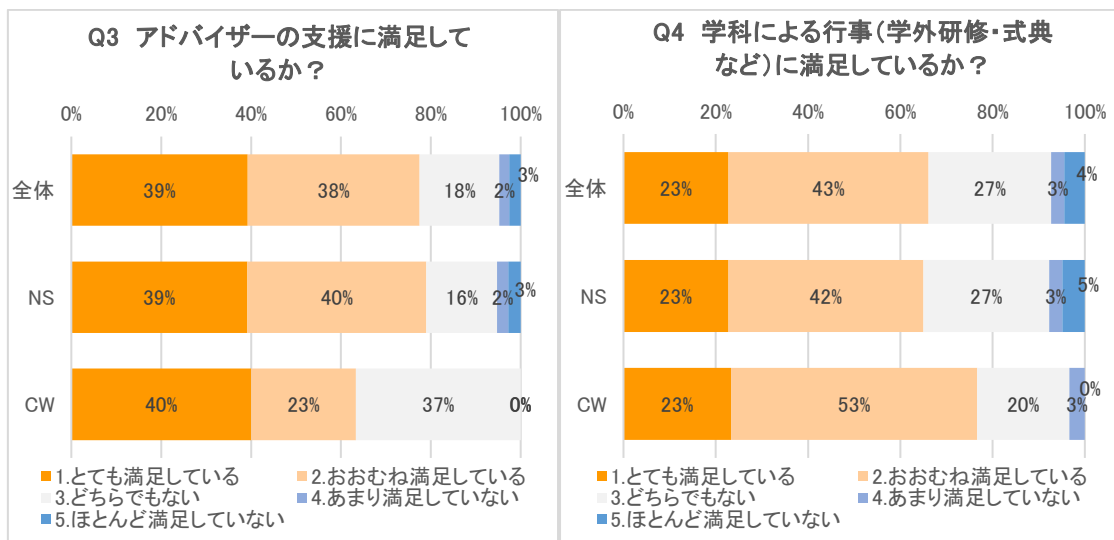
	看護学科				医療介護福祉学科				合計 (内卒業予定者)
	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	
対象者数：人	88	85	124 (117)	297	7	9	14 (13)	30	327 (130)
回答者数：人	88	83	115 (115)	286	7	9	14 (13)	30	316 (128)
回答率：%	100	97.6	92.7 (98.3)	96.3	100	100	100 (100)	100	96.6 (98.5)

II. アンケート結果

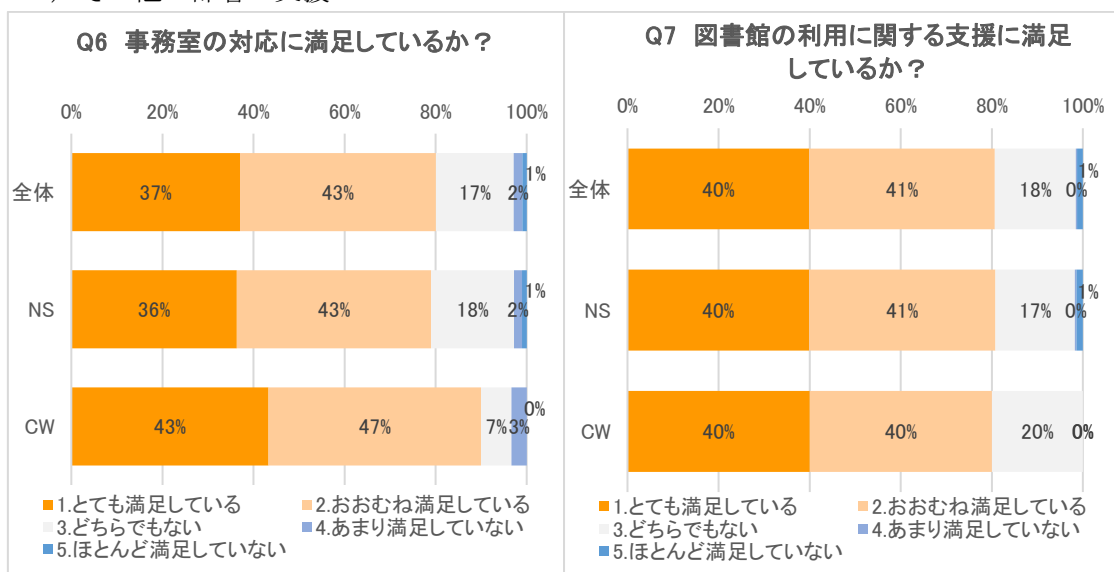
1. 大学生生活満足度（有効回答者数 NS282～286 CW30）

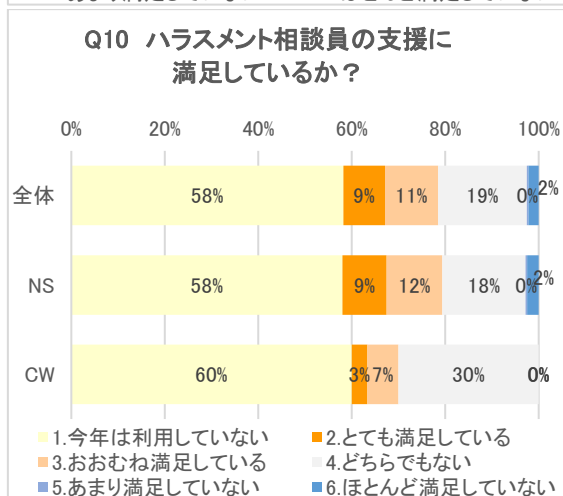
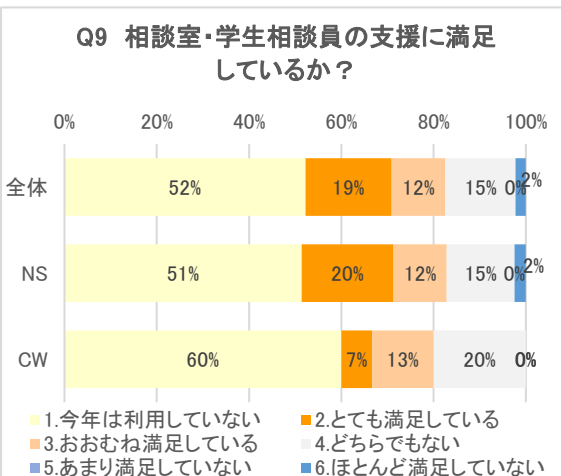
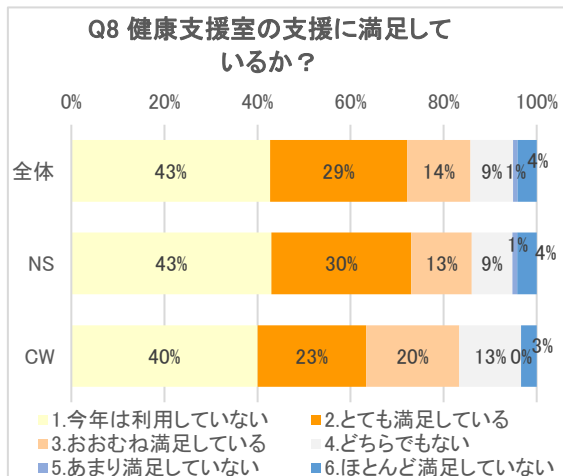
1) 学科支援



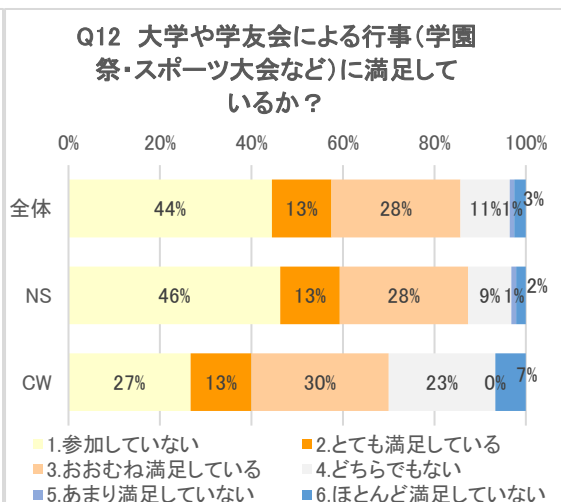
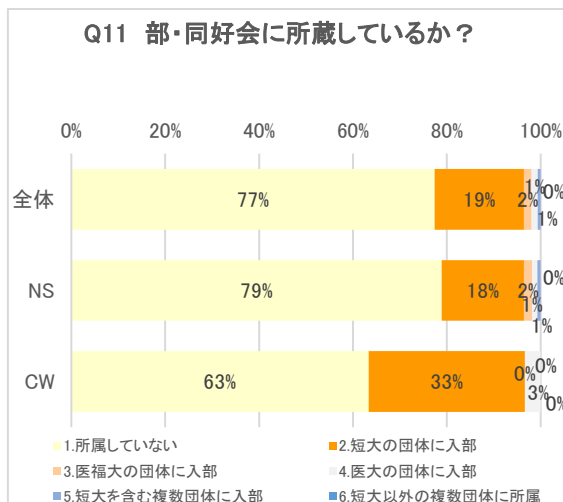


2) その他の部署の支援

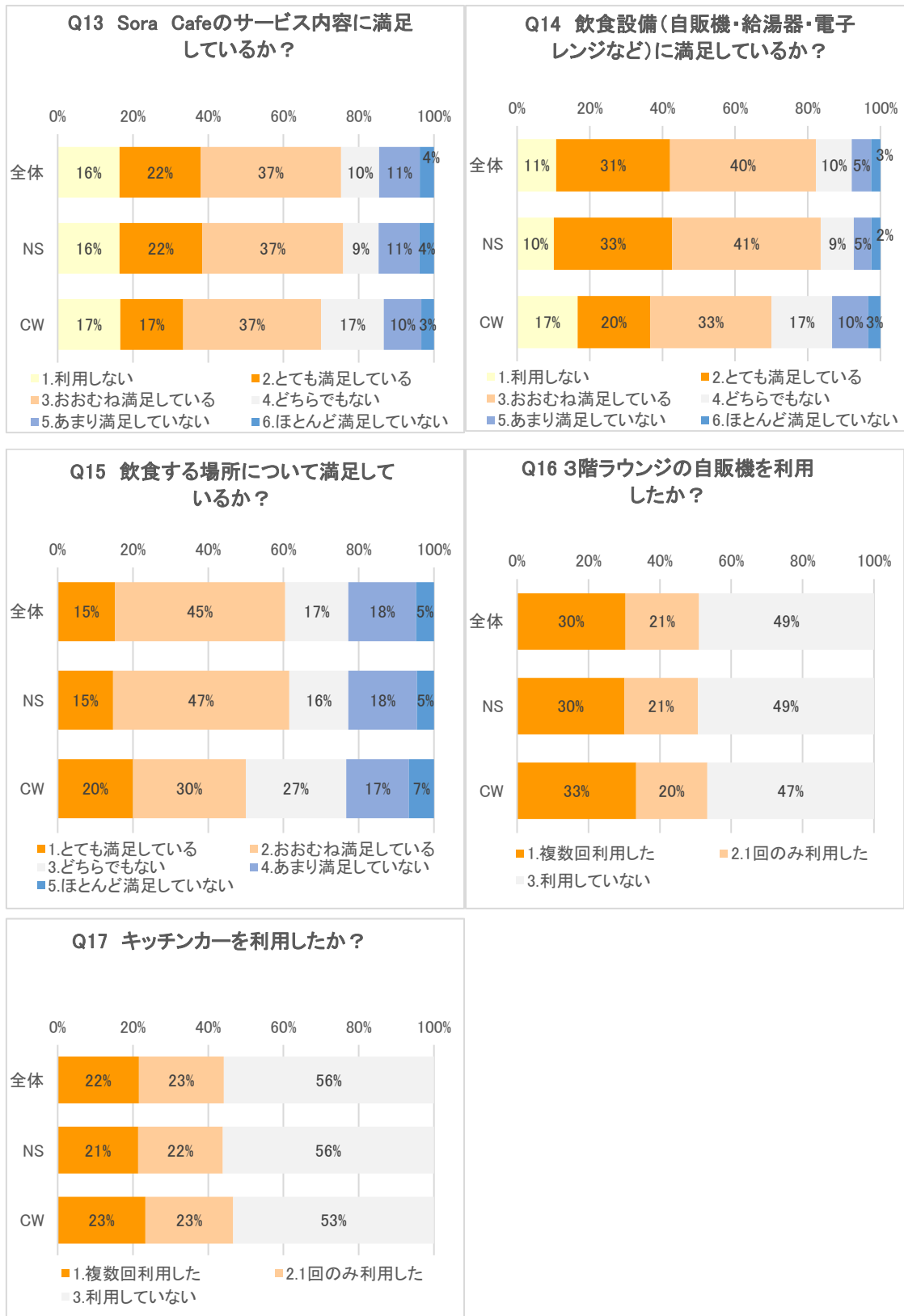




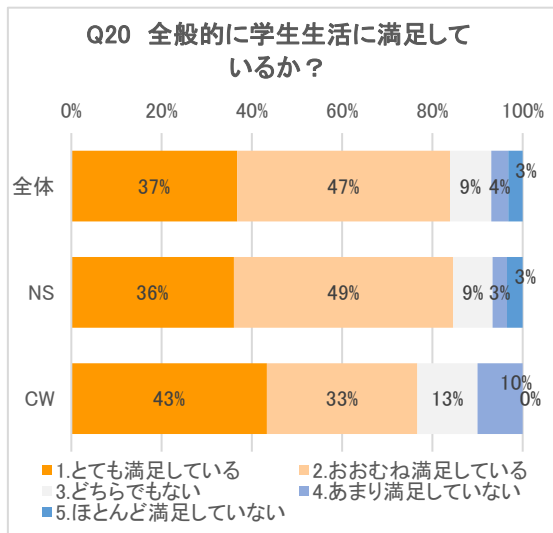
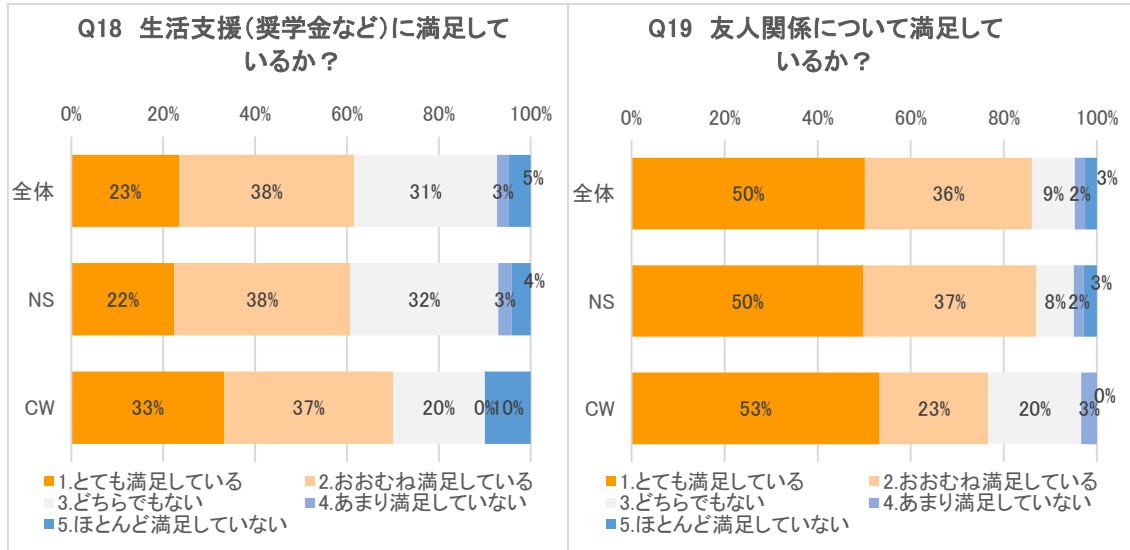
3) 学友会（部・同好会）の活動について



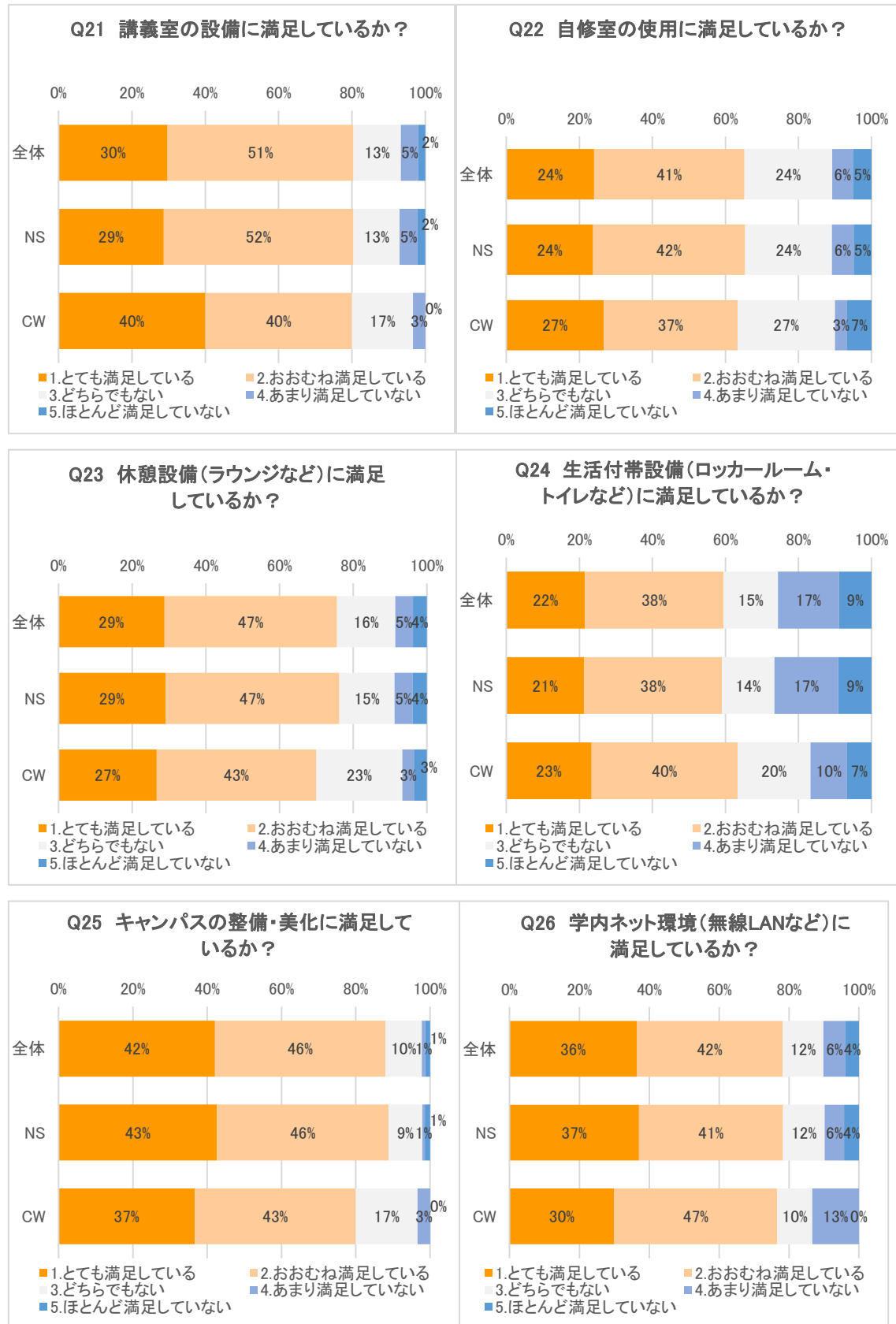
4) 飲食施設について

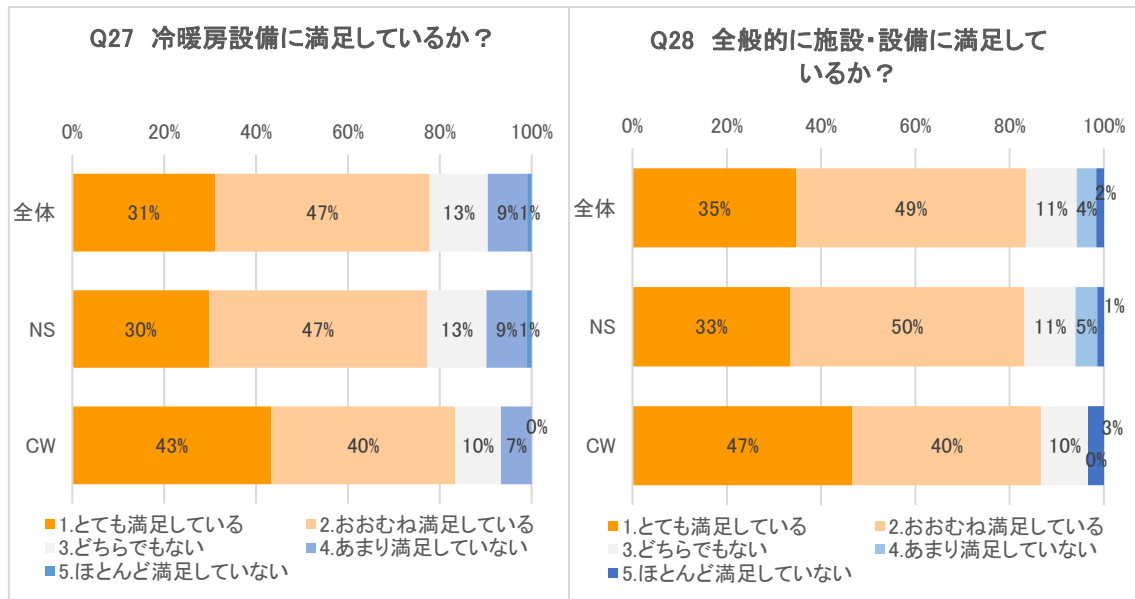


5) その他

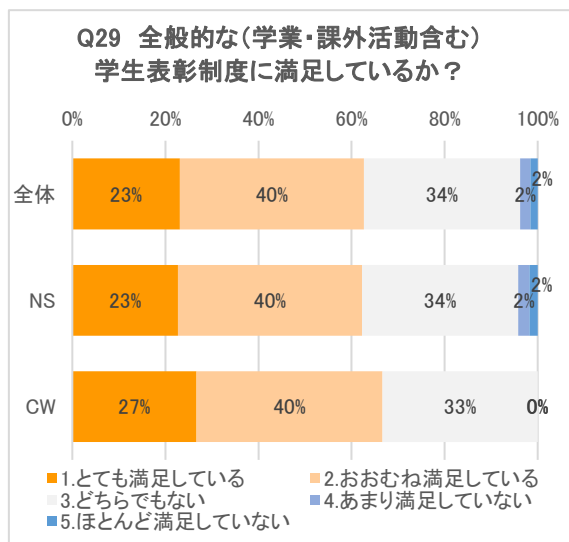


6) 施設・設備について





7) その他



8) 自由記述 (Q30～32)

①岡山キャンパスでの学生生活についての要望・意見

- ・ 個人ロッカーを広くしてほしい
- ・ 学食の種類を増やしてほしい
- ・ 自動販売機等の値段を下げてほしい
- ・ Sora Cafe と自動販売機で現金が使用できるようにしてほしい
- ・ Sora Cafe の営業時間を延長してほしい
- ・ 場所によって冷暖房の調整が必要
- ・ 制服をやめてほしい
- ・ 食堂のご飯の種類の追加と学校に居る間利用可能なコンビニが欲しい

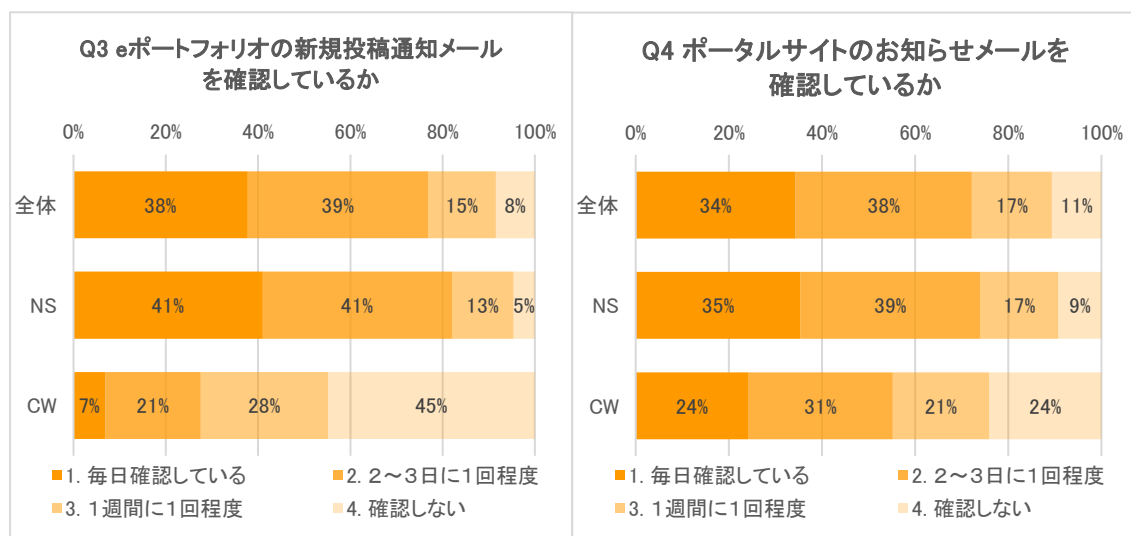
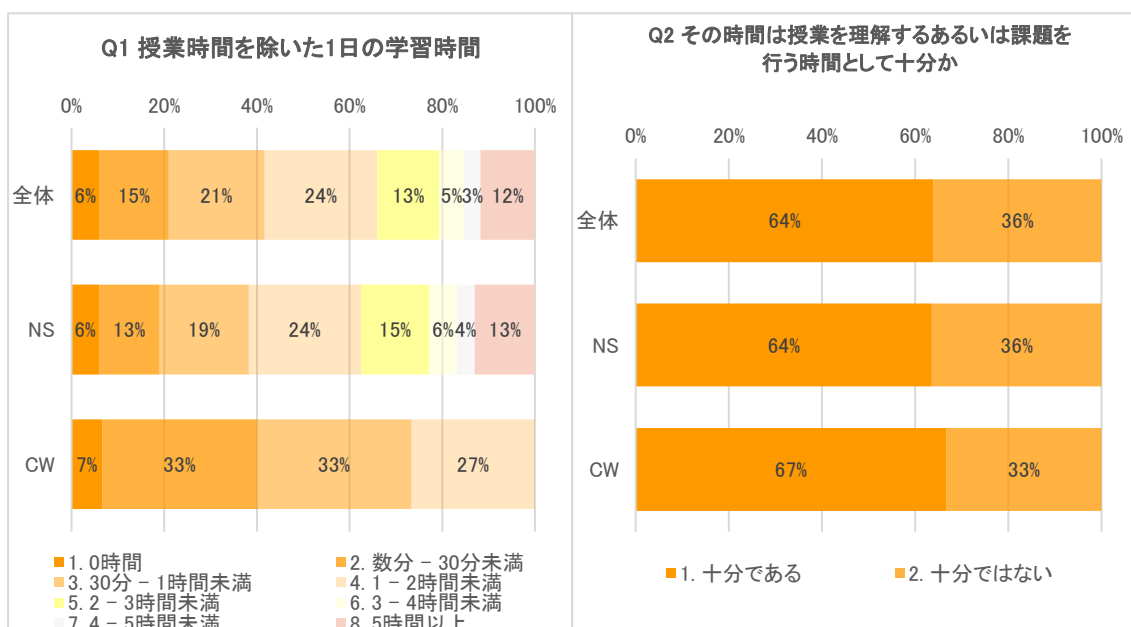
②松島キャンパスでの学生生活についての要望・意見

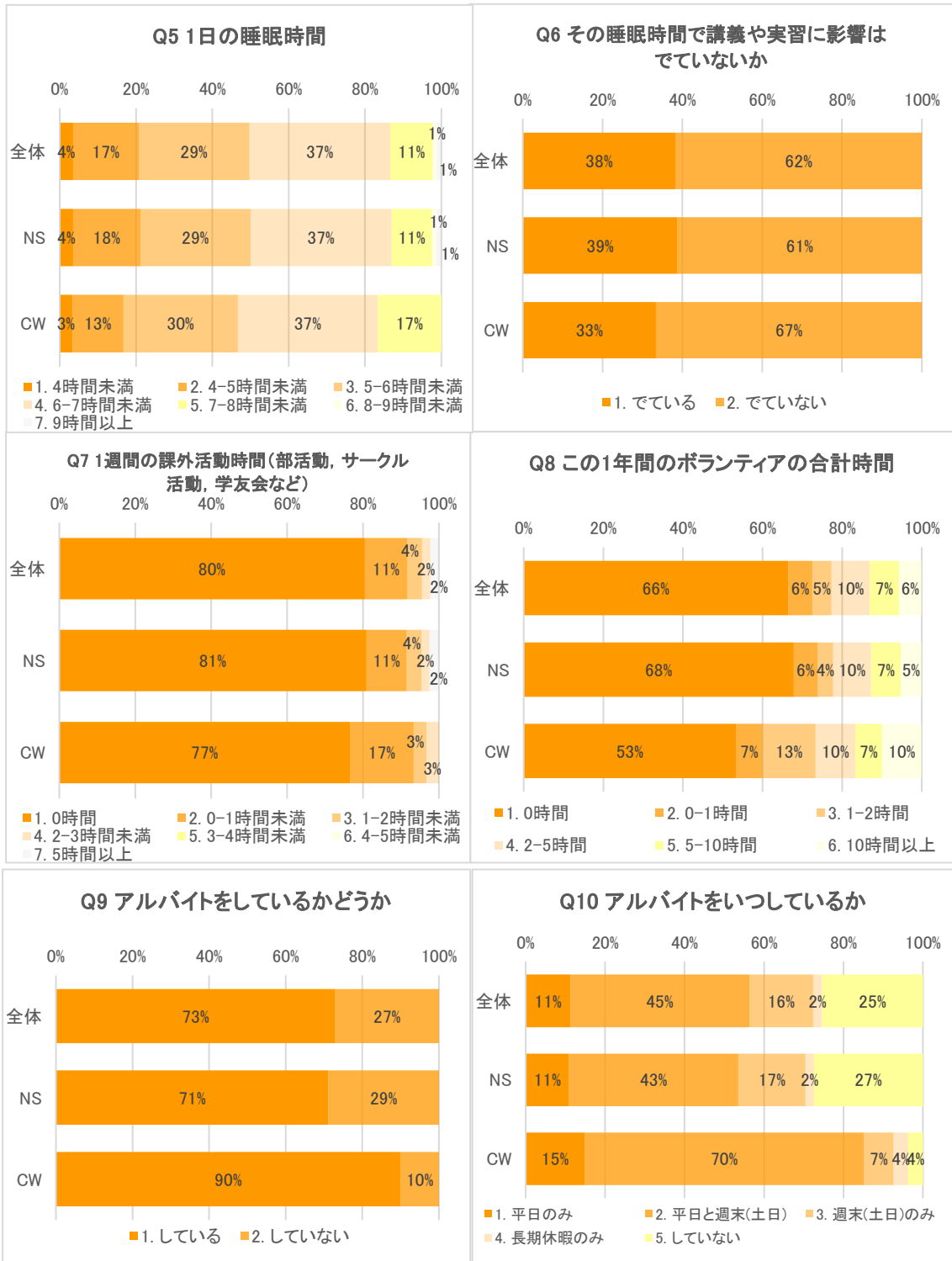
- ・冷暖房の調整をしてほしい
- ・移動に時間がかかる
- ・空きコマに待機できる場所がない

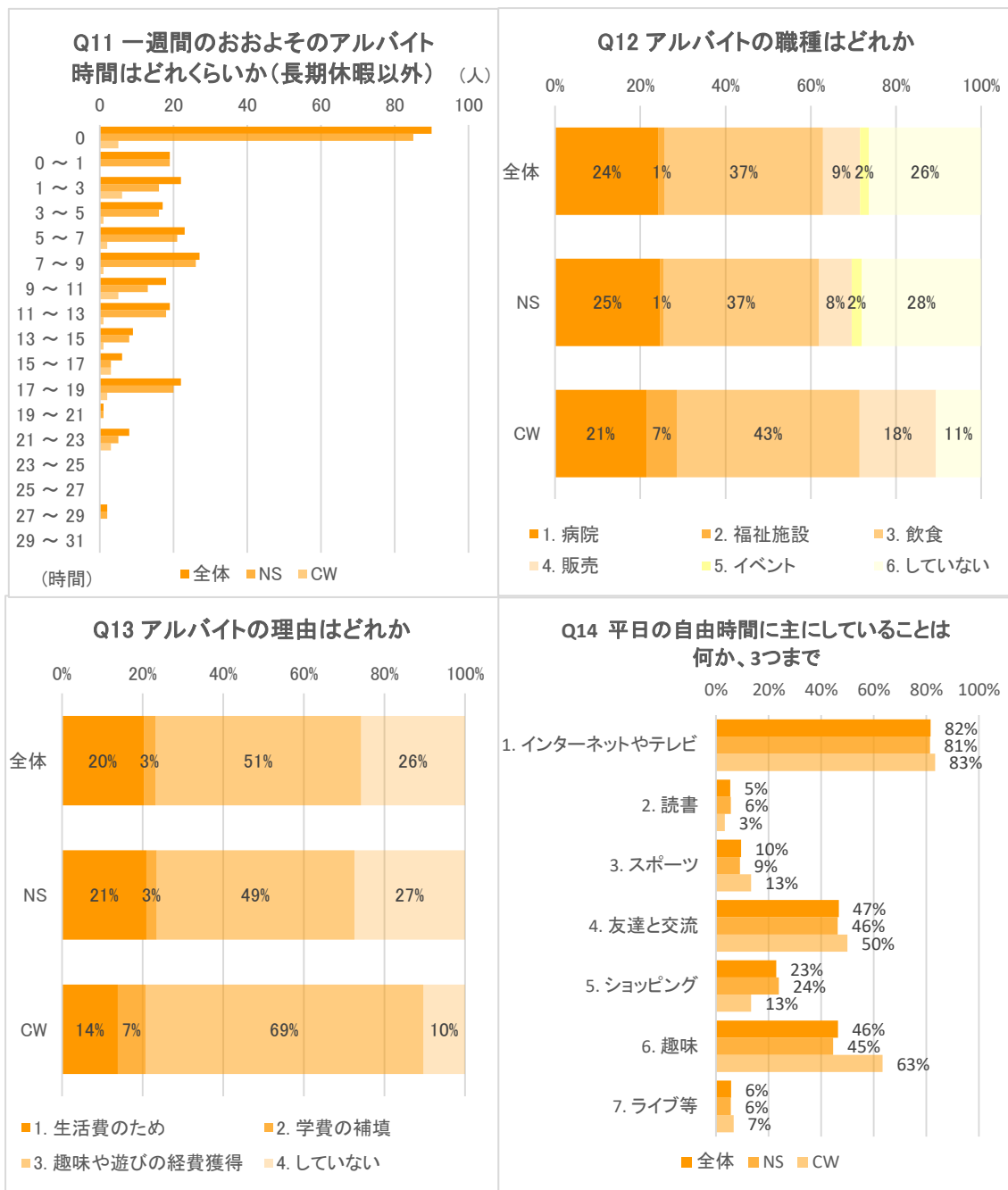
③岡山キャンパスでの講義室の設備・環境について

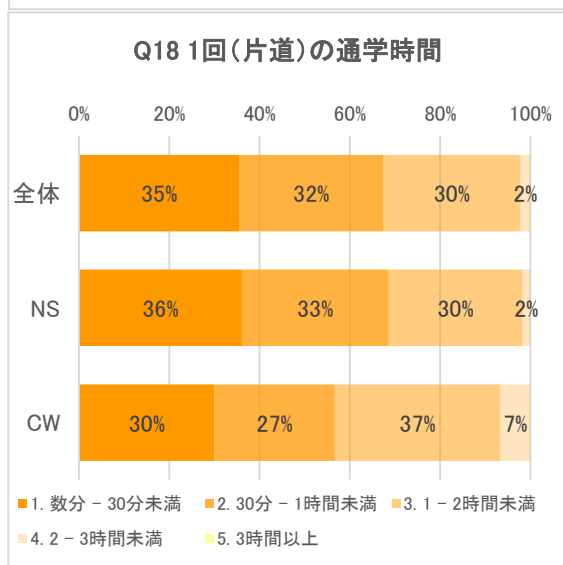
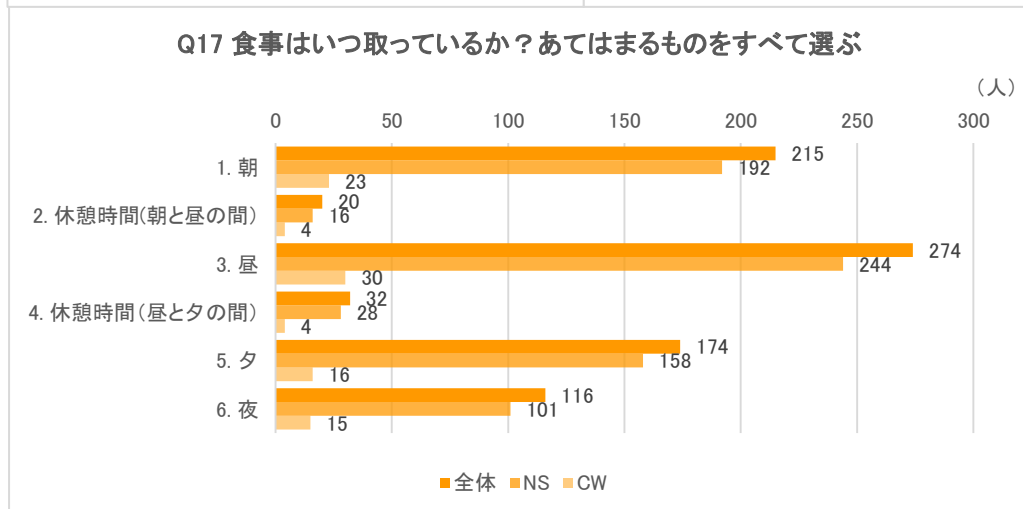
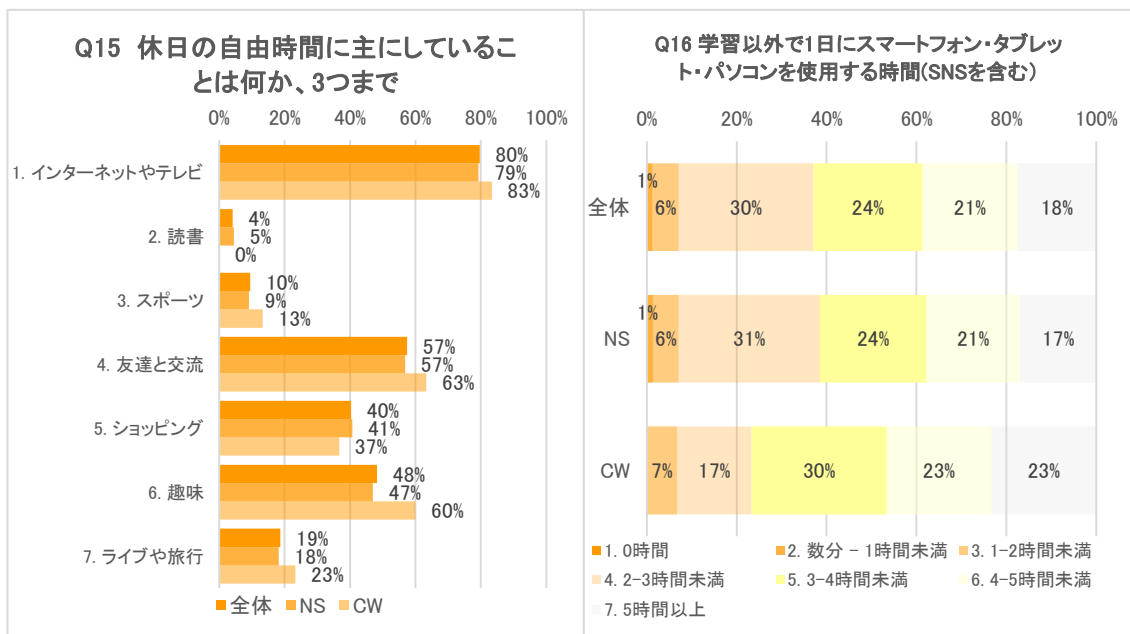
- ・他の学生が設定温度を変えているときがある
- ・温度調節が上手くいっていないときがある
- ・スクリーンを使う時は前の電気を消して欲しい
- ・席が一番前だとスクリーンが近すぎて首が痛い

2. 生活実態調査（有効回答者数 NS278～280 CW30）









Ⅲ. 分析まとめ

1. 看護学科

1) 学生生活満足度調査

学科支援について、担任・教員支援に「とても満足している・おおむね満足している」（以後「満足している」とする）は85%以上であり、「あまり・ほとんど満足していない」（以後「満足していない」とする）は3%であった。「満足していない」が5%を超えている学年もあるが、いずれの学年も10%未満であった。アドバイザー支援については看護学科全体では「満足している」は79%であるが、本年度直接アドバイザーと関わった1年次生は99%が満足していた。学科教員が学生にしっかりと関わった成果であると考ええる。しかし、満足していない学生もいる。無記名でのアンケートのため満足していない学生の特定はできないが、学生の表情や態度等をしっかりと観察をして、気になることがあれば早めに対応する等の対処をしていく必要がある。学科行事では「満足している」は昨年同様に65%であった。「満足していない」は7.7%であり、昨年度の7.8%と大差はなかった。学外研修等の行事が増えたことが学生の満足度維持につながっていると考ええる。全般的に所属学科に満足しているのは81%であることから、学生支援は充実してきていると考える。

部・同好会について、約8割の学生は所属していないが、2割弱の学生は本学の団体に入部しているため今後も活動が継続できるような支援が求められる。大学や学友会行事については半数を超える学生が参加している。参加した学生の7割強の学生は満足しており、参加した学生の満足度は高い。今後はより多くの学生が参加できるよう、学友会執行部以外の学生にもわかりやすい案内の工夫、学友会からだけでなく教員からの声掛けも引き続き必要である。

友人関係には87%、全般的な学生生活には85%の学生が満足しており、高い満足度である。

本年度から松島キャンパスでの講義日は制服着用を求めないことにした結果、松島キャンパスについての意見・要望等は減った。

奨学金などの生活支援に「満足している」が約60%（昨年度70%）、「満足していない」が8%（昨年度3.2%）と昨年より満足度が下がっている。

講義室・ラウンジ等に「満足している」が約8割、「満足していない」は1割未満であり、昨年と大差はなかった。昨年度の調査で302講義室では前が見えにくい席がある等の意見があった。横に広い講義室では同じ学生に学習環境が不利になることがないように、本年度は約1か月ごとに席替えをして学習環境を整えた。本年度は「席が一番前だとスクリーンが近すぎて首が痛い」の1件の記述のみで、プロジェクターが見えにくいといった記述はなかった。今後は一番前の机を除去する等の工夫をして学習環境をより整備していく。

自修室の使用について本年度、放課後は学生が自由に使用できるようにしたが、「満足している」は66%（昨年度63%）、「満足していない」は11%（10%）であり大きな変化はなかった。学内ネット環境、冷暖房設備、設備全般に「満足している」は80%前後で、「満足していない」は10%未満であった。ロッカールームに関しては昨年度28%が満足していなかったため、令和6（2024）年度から混雑を避けるため同じ学年が近くの場合に

ならないよう考慮した配置に変更した。しかし本年度も 26%が満足していない結果となった。自由記述にもロッカーが狭い等の意見は多数あった。昨年度同様 3 年次生は学内で白衣等に替える機会が少なく、満足していない学生は 10%未満であったが、1 年次生は 43%が、2 年次生は 36%が満足していないと回答していた。学年が重ならないよう配置等を変更しても結果は変わらなかった。令和 7（2026）年度入学生から電子教科書が導入され、教科書等をロッカーに入れることが少なくなる。これにより不満が解消されていくことを期待している。

学生表彰制度では「満足している」が 63%（昨年度 57%）、「満足していない」が 4%（昨年度 6%）と昨年よりやや満足している学生が増えている。年間キラリ賞等の説明をしっかりとすることを継続する。

事務室対応は 79%、図書館利用は 81%が満足しており、「満足していない」はいずれも 3%未満であった。事務室対応の満足度は昨年度の 75%より上がっている。事務室での証明書セルフ発行導入に学生が慣れてきたことで、満足度が上がったと考えられる。

健康支援室は約 6 割が利用していると回答している。そのうち 7 割強が支援に満足しており、満足していない学生は 5%であった。相談室は約半数が「利用していない」と回答している。一方、半数の学生が「利用している」と回答し、そのうち 65%の学生が満足し、「満足していない」は 3%未満であった。アンケート作成時に検討はしたものの学生には正確に質問内容が伝わっていないため、実際に利用した学生の満足度がわかるような質問の仕方の検討が再度必要である。

Sora Cafe のサービス内容については、利用している学生が 8 割強であり、そのうち約 7 割は満足していた。自由記述では「営業時間を長くしてほしい」、「量が少ない」等の記述があった。飲食場所に「満足している」は 62%で昨年度の 65%と同程度であった。昨年度の自由記述にも「座れない時がある」、「座席を増やしてほしい」等の意見があり、昼食時には教室や自修室を開放する等工夫をした。飲食設備に関しては満足が 82%、不満足が 7%で昨年と大差はなかった。飲食する場所については不満を感じているが電子レンジの数を増やしたことで飲食設備の満足度の維持につながったと考える。

昨年度「お菓子や長期保存できるパンの自動販売機が設置された場合利用すると思うか？」の質問に対し、利用すると思うが 87%であった。パンなどの自動販売機を設置してほしいとの自由記述もあり、本年度は 3 階にお菓子等の自動販売機を設置した。約半数の学生が利用をしていたが、値段についての自由記述もあった。

本年度からキッチンカー導入を始め、43%の学生が一度は利用していた。今後も継続を検討する。

2) 生活実態調査のまとめと対応

授業時間を除いた 1 日の学習時間で最も多いのは 1～2 時間未満の 24%であった。3 時間以上は 23%で、5 時間以上学習をしている学生が 13%いる中、1 時間未満は 38%、0 時間が 6%であり、学生により学習時間の差が大きい。「その時間は授業を理解するあるいは課題を行う時間として十分か」に対して、「十分でない」と回答している学生は 36%であった。一方、学習以外で 1 日にスマートフォン・タブレット・パソコンを使用する時間では、3 時間以上が 62%、4 時間以上が 38%であった。また、アルバイトについては 71%がしていると回答し、平日もアルバイトをしているのは 54%であった。職種は飲食、

病院の順に多く、アルバイトの理由は生活費や学費の補填等が 24%であり、趣味や遊びの経費獲得は 49%であった。睡眠時間については 6 時間未満が 51%であり、その睡眠時間で講義や実習に影響が出ていないかに対して、影響が出ていると回答したのは 39%であった。SNS に費やす時間が長く、アルバイトをしていることが、学習時間の減少や睡眠不足の要因になっていると考えられる。学生個々の学業成績との関連も考慮しながら、学習時間や睡眠不足の原因を把握したうえで学生に合わせた生活指導を行う必要がある。

e ポートフォリオの新規投稿通知メールを確認しているかでは[毎日している]は 41%、[1 週間に 1 回程度]が 13%、[確認しない]は 5%であった。ポータルサイトのお知らせメールを確認しているかでは[毎日確認している]が 35%、[確認しない]は 9%であった。入学時には何度も毎日確認するよう、また担任からも随時指導は行っているが、毎日確認することが定着していない。そのため全体への指導だけではなく、確認ができていない学生に対しては個別の指導が求められる。

2. 医療介護福祉学科

1) 学生生活満足度調査

学生満足度調査について、対象学生数 30 人、回答率は 100%であった。

担任の支援内容に満足しているかの問いに対して、[とても満足している][おおむね満足している]との意見が 90%であり、また、教員の支援に満足しているかの問いに対して[満足している][おおむね満足している]が 80%であった。このことから、学生の担任、教員からの支援への満足度が高いことが伺えた。そして、全般的に所属学科に満足しているかの問いに対しても、[とても満足している][おおむね満足している]が 83%であり、所属学科に対しての満足度も高かった。しかし、[どちらでもない]が 13%、[あまり満足していない]が 3%あり、その内容を明らかにするためにも、学生個々の様子を観察し普段から学生の想いを聴いて、学生生活の様子を教員間で共通認識していく必要がある。

学科による行事（学外研修・式典など）に満足しているかの問いに対しては、[とても満足している][おおむね満足している]と答えている学生が 76%を超えていた。しかし、[どちらでもない]が 20%、[あまり満足していない]が 3%程度いた。また、大学や学友会による行事（学園祭・スポーツ大会）に満足しているかの問いに対して、[参加していない]と答えた学生が 27%いた。参加した学生のうち約 60%は[とても満足している][おおむね満足している]と答えている。また、学友会（部・同好会）の活動について、[所属していない]が 63%いたが、本学の団体に入部している学生が 33%いた。このことから、大学や学友会の行事に参加することで楽しい学生生活を共有することができることを、行事への参加に躊躇する学生にも伝え、学科の枠を超えて参加できるような環境づくりと、積極的な声掛けが必要であると考ええる。

事務室対応に満足しているかの問いに対して[とても満足している][おおむね満足している]が 90%であった。学生が手続きしやすいシステムを導入し、利用しやすくなったことや、学生へのきめ細やかな日々の対応が満足度に繋がっている。

図書館の利用に関する支援に満足しているかの問いに対して、[とても満足している][おおむね満足している]が 80%であった。今後は、図書館の利用者数を増加させるた

めにも、図書館の積極的な利用を学生に声を掛けていく。

健康支援室は 40%が「利用していない」と答えている。しかし、利用している学生のうち 72%程度の学生が「とても満足している」「おおむね満足している」と答えている。また、相談室は、60%が「利用していない」と答えているが、利用した学生のうち「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は 50%であった。健康支援室や相談室の学生相談員による支援が、必要時には利用できる体制であることを今後も周知していき、利用しやすい環境作りや学生相談員等と連携を図る必要がある。

Sora Cafe のサービス内容に対しては、「利用しない」と答えた学生が 17%程度いた。しかし、利用している学生では「とても満足している」「おおむね満足している」と 65%が答えている。半面、「あまり満足していない」「ほとんど満足していない」と答えた学生が 15%いた。自由記述で、「座席を増やしてほしい、電子レンジを増やしてほしい」等の意見があったため、昼食時の教室や自修室の開放、お菓子や長期保存できるパンなどが購入できる自動販売機を設置し、電子レンジも増設した。また、この自動販売機を 1 回でも利用した学生は、53%を超えていた。キッチンカーの利用を含め、今後も、学生の要望に応えていける部分は、改善を進め、利用しやすい環境になるよう調整していく。

友人関係に対して満足しているかの問いに対して「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は、76%を超えていた。[どちらでもない] が 20%、[あまり満足していない] が 3%であった。個々の学生を観察し、普段の様子を見守っていくことも必要と考える。

講義室の設備に満足しているかの問いに対しては「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生が 80%であった。

休憩施設（ラウンジ）に満足しているかの問いに対しては、「とても満足している」「おおむね満足している」が 70%であった。

生活付帯設備（ロッカールーム・トイレなど）に満足しているかの問いに対して「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は 63%で、「あまり満足していない」「ほとんど満足していない」と答えている学生が 17%いた。自由記述で、「便座が冷たい」「ロッカーが狭い」などの意見があったが、ロッカーを広くすることは設備上難しい点やエコの観点から便座はこのままで様子を見ることを学生に周知しておく必要がある。

キャンパスの整備・美化に満足しているかの問いに対して「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は 80%いた。学生も日頃からごみの分別にも心がけている様子があり、各自で美しく保つ意識付けを今後も継続していけるよう見守っていく。

全般的な学生表彰制度に満足しているかの問いに対して「満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は 67%を超えていた。[どちらでもない] が 33%であり、キラリ賞や学長賞などの受賞に向けて、興味をもてるよう普段からの声かけを行う必要がある。

このような結果から、相対的に昨年度の満足度と同様または、やや向上している傾向にあり、継続して学生の声を聴き、環境の調整、改善に努めていく必要があると考える。

2) 生活実態調査のまとめと対応

学生実態調査では、授業時間を除いた1日の学習時間が0時間が7%、数分～30分未満が33.3%、30分～1時間未満が33%、1～2時間が27%で、73%の学生は1時間未満の学習時間であった。また、「その時間は授業を理解するあるいは課題を行う時間とした十分か」との問いに対して、[十分である]と答えた学生は67%で、[十分ではない]と答えた学生が33%いた。1日の学習時間が[十分ではない]と答えた学生は、なぜ十分に学習時間が確保できないのか、その原因を把握する必要がある。座学での学びが実習で役に立つことや3年次の国家試験合格につながることなど、自己学習の時間の必要性を学生に伝えることで学生の学習意欲の向上につながると考える。

「eポートフォリオの新規投稿通知メールを確認しているか」の問いに対しては、[確認しない]が45%であった。また、「ポータルサイトのお知らせメールを確認しているか」の問いに対しては、[確認しない]が24%であった。医療介護福祉学科では、教員から学生への連絡はTeamsで行い、必要時には学生に直接声をかけて、伝達の漏れがないよう努めている。しかし、学生自らが情報を知ろうと努めることができるように、学内メールやポータルサイトを確認する習慣付けできるよう指導する必要がある。

1日の睡眠時間については、6～7時間未満が37%、次いで5～6時間未満が30%、7～8時間未満が17%であり、4～5時間未満が13%、4時間未満が3%であった。そして、「その睡眠時間で講義や実習に影響は出ているか」の問いに対し、影響が[出ている]と答えた学生が33%、[出していない]と答えた学生が67%であった。このことから、睡眠時間が講義や実習に影響が出ている学生には、面談を行い、睡眠時間を確保することが出来ていない理由を把握したうえで生活リズムが整うように個々に合わせた指導を行う。

「アルバイトをしているか」の問いに対して、[している]と答えた学生が90%おり、ほとんどの学生がアルバイトをしている。また、「いつしているか」の問いに対しては、[平日のみ]と[平日と週末(土日)]を合わせて85%であった。そして、職種は飲食が43%、病院が21%であった。アルバイトの理由は、[趣味や遊びの経費獲得]のためが69%で[生活費のため]も14%あった。今回の調査結果を理解したうえでアルバイトが学習時間や睡眠など学生生活に影響が出ているかを把握する必要がある。学科内の教員と情報を共有して、学生指導を行っていく。

「この1年間のボランティアの合計時間」は、0時間が53%で、ついで1～2時間が13%、2～5時間が10%であった。また、10時間以上も10%おり、コロナ禍が明けて、学生のボランティア活動への意識も徐々に高まってきていることが伺える。さらに参加できる機会を逃さず伝えていきたい。

3. 今回の調査の問題点と改善点

昨年の調査結果をふまえて設問の表現を再検討したが、こちらの意図と異なる回答をする学生がいた。特に、相談室利用に関する設問では、昨年同様に利用実態がないにも関わらず、約半数の学生が利用しているものとして満足度を回答するなど、実際の数字とはかなり乖離した回答結果が出た。そのため、再度学生にわかりやすい表現で誤認を防ぎ、回答に負担の少ない設問文を検討する。

今回の調査結果を次年度からの生活指導に活かして、学生生活の改善を図っていき

い。